
■□ 2021 年 2 月 10 日 NO. 203

C | A | R | E | E | R | U | O | T | T | C | H | A | R | A | C | T | E | R | I | S | T | I | C | S

◆◆◆ トピックス/ 協会主催 出版記念セミナー（ライブ配信）

これからのキャリアコンサルタントに求められる能力とは何か？

私たちはこのように読み解いた！

「『キャリアコンサルタント新能力要件』を読み解く」～執筆陣からのメッセージ

★★★

1/26（火）18:30～よりライブ配信されたこのセミナーはまさにオンライン出版記念イベントでした。この『『キャリアコンサルタント新能力要件』を読み解く』は 7 名の執筆者による共著ですので、それぞれで担当された執筆パートがあります。しかし、執筆者お一人お一人が強く主張されていたことは、「確かに私が執筆したものではあるけれど、その内容は私だけの意見ではなく、ここにいう 7 名の対話の結晶である」ということでした。

渡辺三枝子先生を中心に何年にも渡って日本のキャリアカウンセリングの発展について議論を重ねてきた有志の集まり「キャリアカウンセリングを考える会」。そこで繰り広げられた熱い議論の結晶としてこの著作を手にした時、そのまえがきに気持ちが引き締まります。曰く「資格試験に合格するまでは正解を求めて勉強していたとしたら、合格した後は、正解がないからこそ、本質をつかみ、多様な視点を養い適用する力を身につける学習こそが必要ではないかと、筆者らは考えています」。自らの持つ知識や技能の根本を問い、自分の考えを絶対視しないこと、渡辺先生は言います。「執筆の過程で我々自身が成長させてもらいました。皆さんも同じように自分自身に問いかけ、考え、答えを探してくださいというのが本書の特徴です」。

さらにご自身を含めて 7 名の執筆者の多様なバックグラウンド（教育機関、病院、国際機関、企業など）について言及し、このように働く場と専門領域は異なるけれど、カウンセリングを学び、共通哲学を持ち日本におけるキャリアカウンセラーという職業の発展を願う同士であると紹介してくださいました。今回初めて執筆者のお顔と声を聴くことができ、親しみを覚えられた方も多かったのではないのでしょうか。やはりお顔とお名前が一致すると一気に距離が縮まります。

渡辺先生からバトンを受けた中村恵さんは国連職員として紛争や迫害で他国に逃れる難民という人たちをサポートする仕事をされてきた方で、「この会のメンバーはカウンセリング心理学の土台となる人間観、価値観、信念を共有している。そして人の心と向き合う仕事であるからこそ、人間観が大事であることを第1章に持ってこようと話し合い、そのパートを執筆されました」とのこと。そこに強いメッセージを感じました。

続く、田中勝男さんは長らく企業の現場で会計監査、組織活性支援、人材開発の仕事に携わりながら、現在は大学でのキャリア教育にも関わっておられます。専門家として「できること」と「できないこと」を明確に区別するという言葉が特に印象に残りました。

続いての道谷里英さんは大学の准教授でいらっしゃいますが、人事コンサルタントや人事企画のご経験を踏まえて、組織と個をともに大切にする人事・教育について関心をお持ちです。日々学生に向き合っている中で「学生」と一括りにせず、固有名詞のある人間として対応しているそうですが、良い対話にはどれだけ自分をオープンにできるかが大事で、それができると学生の反応が全く違うと仰います。こうした対話力は、相談者に自己理解を深めてもらうためにカウンセラーに欠かせないスキルなのだと改めて感じました。

大庭さよさんは「メンタルヘルス」がキャリアコンサルタント能力要件に入っている意味について、真正面からその意味を読み解いてくださいました。キャリアコンサルタントがすべてに対応することはできませんし、またしてはいけない場面もあるでしょう。誰のために何のために支援をしているのか、目標を他者と共有し協働することの大切さを強調しておられました。

河田美智子さんは残念ながらご欠席でしたが、理事長藤田さんから「自己理解は一人にあらず、一日にしてならず」というメッセージを代読いただきました。余談として「漫画を読むと自分とは異なる主人公の立場が体験できて、自己理解に役立つ」とのお話が興味深かったです。

最後は理事長の藤田真也さんです。大事にしていることとして繰り返し仰っていたことは、自分ではできていると過信しないこと、自分の知恵が万人に通用すると早合点しないこと、常に人に対して謙虚であるという姿勢だと感じました。それはキャリアコンサルタントとして最も大事な素養ではないかと思います。そのような姿勢があればこそ、常に学び続ける、成長し続ける原動力を維持できるのでしょう。

これから日本のキャリアカウンセリングの発展を担う同士として、ともに学び続けたいという思いが高まるイベントであったことをご報告致します。

★著作にご興味を持たれた方は、ぜひこちらからお求めください。

https://www.career-npo.org/seminar/seminar_20200126.html

◆◆◆ 記念セミナーの紹介

昨年 11 月に、メルマガは配信 200 回を迎えました。それを祝し、来る 2 月 16 日「200 回記念企画セミナー」をオンラインで開催します。テーマは「人生 100 年時代のキャリア教育～教育現場と採用現場、バトンは渡っているか」です。丑年は新しい芽を生み出し、繋がりを大事に育む年にしたいと思います。どうぞお楽しみに！

申し込みは下記へ↓

https://www.career-npo.org/seminar/seminar_20210216.html

***** 編集後記 *****

1 月 30 日付けの朝日新聞の「ひと」というコラムで、川田美穂さんについて知った。川田さんは第 164 回直木賞の選考会で司会を務めた初の女性である。そもそも直木賞は慣例で、文芸春秋の小説誌「オール読物」の編集長が司会を務める。昨秋、90 年の伝統がある同誌で女性として初めて編集長に就いたのが川田さんなのだ。そして、何に驚いたかといえば、直木賞、芥川賞において今まで男性しか司会進行をしていなかったということだ。さらに、二つの文学賞の受賞作品と作者を調べてみると、1985 年以前は圧倒的に男性が多く、女性の姿はほとんど見あたらない。が、1985 年を境に目に見えて女性の作品が増えていく。まさに翌年 1986 年の男女雇用機会均等法と足並みを揃えて見えるのは偶然の一致ではないだろう。

そこから 30 年以上の歳月が流れ、安倍政権下から再び？女性の活用が叫ばれている。来年度の新卒募集で某商社が女性を半数以上採用、大手電機メーカーで女性役員誕生、というニュースを目にしたが、これがニュースになるところに日本の女性活用の現状が見てとれる。将来イベントを男性に比べ多く持っている女性にとって、数合わせでなく、働く環境の整備があって初めて機能するものではないかと思う。もちろん、男女を区別することなく、誰にとっても働きやすい環境とは何かを考えることが大事であることは言うまでもない。

今 ESG 投資（＊）という考えが世界で広まりつつある中で、日本も環境やジェンダーに関心が高まっていることは良いことだと思うが、絵に描いた餅になら

ないように真摯に向き合いたい。昭和から平成、令和へ世代は移り変わっていく。それこそ働くことの価値や生きることの意味はそれぞれ多様化しているに違いない。でもそうした変化や多様化に目が向かないことも、また認めたくないこともあるだろう。私たちキャリアコンは、変化に戸惑うクライアントに寄り添い、ともに変化していくことに喜びを感じられるそんな存在でありたいと願っている。

網野千文

* E S G投資とは環境や社会への貢献、企業統治（ガバナンス）に積極的な企業に投資すること。E（Environment）環境、S（Social）社会、G（Governance）企業統治。

↓芥川賞、直木賞の受賞作品一覧（参考まで）

<https://prizesworld.com/naoki/wins/>

#####

次号 No 204 は 3 月 10 日です

#####

◆◇ メルマガへのご意見・ご感想は下記メールアドレスにてお待ちしております。
E-mail : info@career-npo.org

◆◇ G C D F 資格者の皆様に『マイページ』を提供しています。受講した継続学習の履歴を閲覧・入力できます。又、マイページでは「お役立ち情報」「海外からのメッセージ」「メルマガバックナンバー」等様々な情報を掲載していますので、是非ご活用ください。

◆◇ G C D F 継続学習や国家資格更新講習、各種セミナーの情報は下記に掲載されています。

<https://www.career-npo.org/learning/>

***** ☆S☆T☆A☆F☆F*****

♪♪♪ 発行人：藤田 真也

♪♪♪ 編集長：網野 千文

♪♪♪ 編集スタッフ：井上里美 井出典子

♪♪♪ 発行：特定非営利活動法人 キャリアカウンセリング協会

注）このメールに掲載された記事を許可なく転載することを禁じます。